

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスめぶき上野幌		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		～ 2025年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		～ 2025年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容の充実	SST・英語レッスン・音楽療法 個別・小集団・集団での活動など、様々な活動を取り入れている。	子どもや職員から取り入れたい活動が聞かれた際には、積極的に検討をしていく。
2	積極的なイベント実施	子どもたちの可能性を引き出すために、季節に応じた行事や外出行事を積極的に実施している。	他事業所とも情報共有をし、新たな活動や外出場所を開拓していく。
3	チームでの支援	日々ミーティングや振り返りを通じて、職員の意識や質の向上に努めている。 子ども達の興味、日頃の関わりから、小さな発見を見逃さず取り組みに活かしている。	情報共有は引き続き行い、個々の発達課題に合わせて療育の内容を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内での運動	施設一階には整骨院があり、室内での強度の強い運動はクレームに繋がりがやすい。また、高学年になると運動を取り入れた集団でのゲームには狭さを感じることもある。	・利用人数に応じて活動場所を分散させたり、机の配置を工夫してスペースを最大限に活用する。可能であれば、施設の拡張や新しい活動場所の確保も検討する。 ・今後も戸外での活動を積極的に取り入れる。
2	地域に開かれた事業運営	月に一度、事業所から半径500m程度の範囲でゴミ拾い活動を行っているが、単独で行っているため地域住人と密着した活動は行っていない。	・地域や他事業所の活動情報に目を配り、参加できそうな催しがあれば状況に応じて参加を検討する。 ・地域のボランティア団体などの受け入れを行っていく。
3	バリアフリー対応	建物の構造上、療育スペースが二階にある。そのため、バリアフリー対応が必要な児童の受け入れが難しい状況にある。	バリアフリー化されていない箇所においては手すりの設置を進めるほか、危険が予測される箇所についてはイラストでも認識できるように注意喚起し、事前に危険な様子が見られた際には都度声掛けをして事故が起きないように努めていく。